

お手入れ時の注意事項

商品を長くお使いいただくため、本書に従ってこまめにお手入れを行ってください。
お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れが、しみや腐食の原因となり、他の不具合につながる場合があります。特に海岸地域や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみや腐食が進みやすくなります。

また、ご自身で調整を行う場合も、本書に従って行ってください。

ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お願い

【調整する場合】

商品を調整する際は、電動ドライバーを使用しないでください。
商品の不具合や破損の原因となります。

【水への配慮】

お手入れの際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで勢いよく水をかけないでください。
室内側へ水が入るおそれがあります。

ポスト口に、ホースなどで直接水をかけないでください。
内部の郵便物が濡れるおそれがあります。

【薬品への配慮】

お手入れの際、有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）を使用しないでください。
有機溶剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

お手入れの際、塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）やエチルアルコールを使用しないでください。
表面に付着すると、変色するおそれがあります。
付着した場合は、すみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】

たわしや金属たわしなどは、絶対に使用しないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

布やスポンジに砂などが付着したままふき掃除をしないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

お願い

【アルミ製商品】

表面に汚れがついた場合は、早めに洗い落としてください。
汚れがついたまま放置すると、しみ、腐食、色落ちするおそれがあります。

【スチール製商品】

玄関ドアの鋼板表面を水や中性洗剤でふいても、艶や色あせが改善されない場合は、研磨剤の入っていないワックスを使ってお手入れすることをお勧めします。

※ワックスの一例：植物成分100%のワックス

※ワックスを使用する際は、その用途を確認し、説明書に従ってお手入れしてください。
ドア鋼板に適さないワックスは、変色や汚損の原因となりますので使用しないでください。

【樹脂製商品】

ストーブやアイロンなどの熱源を近づけないでください。
熱源を近づけたり、触れたりすると、変形することがあります。

樹脂表面に、殺虫剤などの薬剤を塗布・散布しないでください。
薬剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

【アクリル・ポリカーボネート板】

商品に有機溶剤を含む、殺虫剤やガラスクリーナーを塗布・散布しないでください。
有機溶剤が付着すると、ひび割れが発生するおそれがあります。

【ガラス】

お手入れの際は、必ず柔らかい布をご使用ください。
ガラス表面にキズがつくと、割れるおそれがあります。
ガラス表面にキズがついた場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

【電動商品】

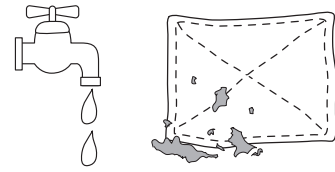
お手入れの際、電装部品に水がかからないようご注意ください。
水がかかると、故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

お手入れ方法

■通常のお手入れ（ハンドル・引手含む）

1 表面のホコリ・砂を落とす

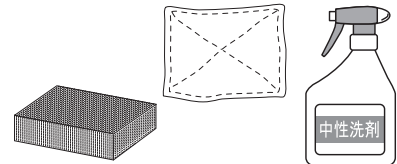
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

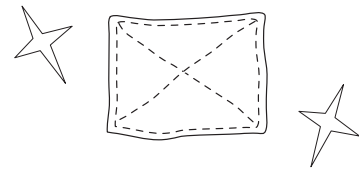
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

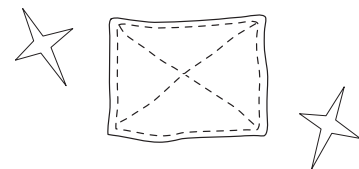
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■結露・雨水などがかった場合

1 水分をふき取る

すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



下枠・レール

- 下枠やレールは、特に砂、ホコリ、ゴミなどがたまりやすいところです。こまめにお手入れしてください。

■下枠・レールのお手入れ

1 砂やホコリを吸い取る

レールのミゾ内部にたまった砂やホコリを掃除機で吸い取ります。

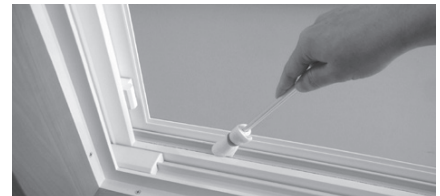


または、やわらかいブラシで砂やホコリを落とします。



2 汚れをふき取る

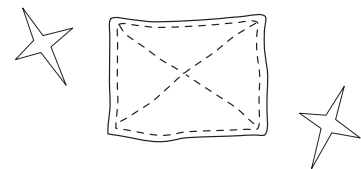
割り箸の先に布を巻き付け、さらに汚れをふき取ります。



■土間引戸の下枠レール間に水がたまった場合

1 水分をふき取る

下枠に水がたまった場合は、乾いた布で水分をふき取ります。



お願い

時間が経つと水は流れていきますが、気になる場合は、ふき取ってください。

網戸（ネット部分）

● 網戸の取りはずし方・取り付け方は、P.256～P.298を参照してください。

1 ネットを水洗いする

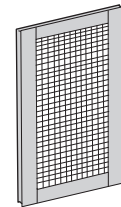
ネットがはずれないように柔らかいブラシやスポンジで軽く押さえるように水洗いします。

※汚れが落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）を使い、軽く洗い流します。



2 水分をふき取る

水分を十分にふき取り、乾燥させます。

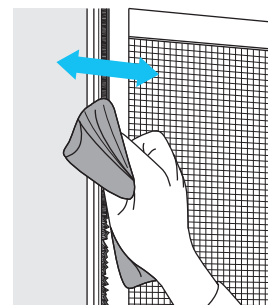


網戸（モヘア部分）

1 モヘア表面のホコリ・砂を落とす

柔らかい布や柔らかいブラシに水を浸し、モヘアの毛並みに沿うように水洗いします。

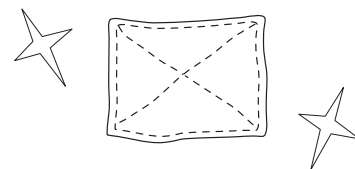
※汚れが落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）を使い、軽く洗い流します。



2 水分をふき取る

モヘアの毛並みに沿うように水分を十分にふき取り、乾燥させます。

※モヘアが毛束になっている場合は、毛束をほぐしながら水分をふき取ります。





警告



[禁止]

操作ひもが体に巻きついたり、引っかかったりするようなことをしない

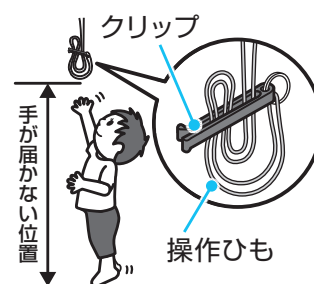
操作ひもが体に巻きついたり、引っかかったりするようなことをしないでください。窒息など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

操作ひもをお子様の手が届かない位置にクリップでまとめる

事故防止のため、操作ひもを使用しない時は、必ずお子様の手が届かない位置にクリップでまとめてください。

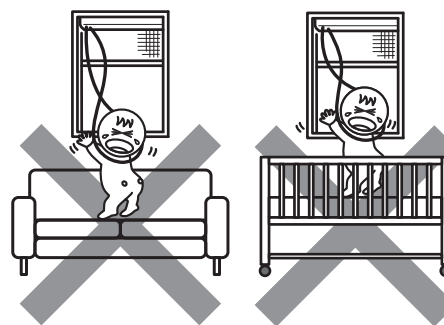


[禁止]

操作ひもの近くにソファやベッドなどを置かない

小さなお子様がいるご家庭では、操作ひもが付いた商品の近くにソファやベッドなどを置かないでください。

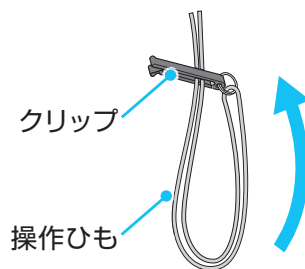
小さなお子様はソファやベッドなどに上がることで、操作ひもに手が届き、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



クリップを使った操作ひものまとめ方

1

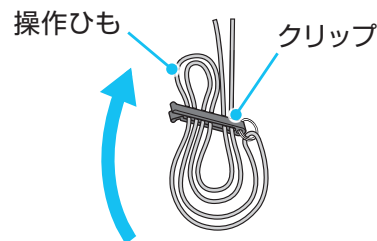
クリップを操作ひものお子様の手が届かない高い位置にとめる



2

操作ひもをまとめてクリップでとめる

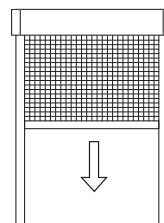
垂れ下がった操作ひもをまとめてクリップでとめます。



3

操作ひもがお子様の手の届かない位置であることを確認する

網戸ネット室内面のお手入れ方法



ご使用前に確認してください

- 必ず、P.5「第1章 安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

1 網戸を閉める

2 水に浸した布などで軽くふき取る

表面のホコリを取り除いた後柔らかい布またはスポンジを水に浸し、軽くふき取ります。

※水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流してください。

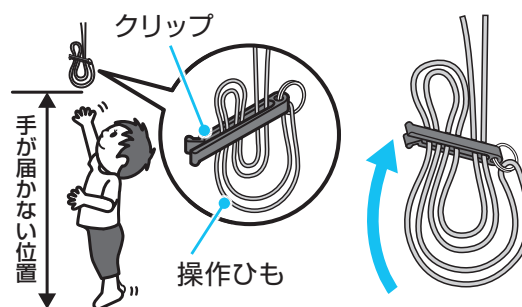


3 乾燥させる

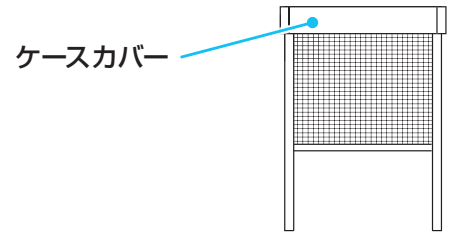
水分を十分にふき取り、乾燥させます。

4 操作ひもをまとめてクリップでとめる

垂れ下がった操作ひもをまとめてお子様の手が届かない位置にクリップでとめます。



網戸ネット室外面のお手入れ方法



ご使用前に確認してください

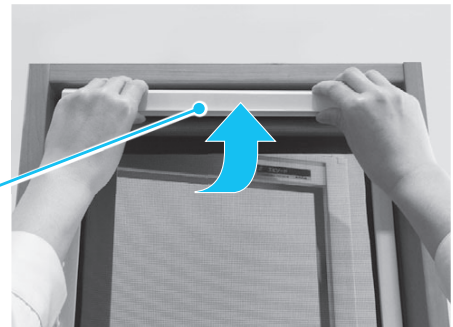
- 必ず、P.5「第1章 安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

1 網戸を閉める

2 ケースカバーを開ける

ケースカバーを手前に引き上げて開けます。

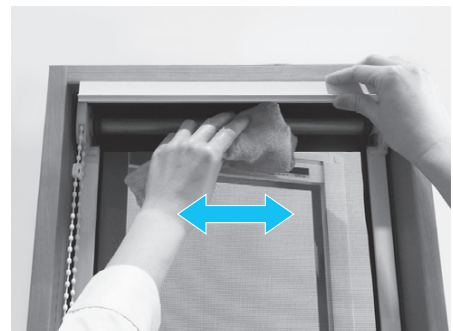
ケースカバー



3 布でケース内のネットをふく

ケースカバーを持ちながら、かたく絞った柔らかい布でケース内のネットをヨコにふきます。

※この状態で室外面のネットをふいていることになります。



4 網戸を巻き上げながらケース内をふく

ケースカバーを持ち、手前側の操作ひもを引いて網戸を5cmずつ巻き上げながら、ケース内のネットをヨコにふきます。

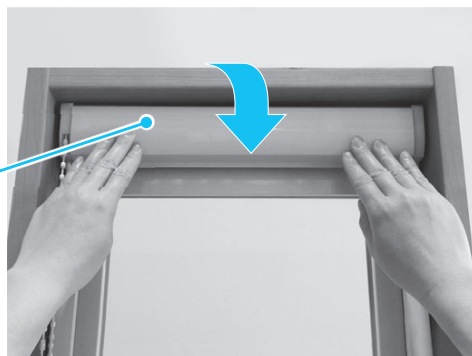
手前側の操作ひも
(ボールチェーン)



5 ケースカバーを閉める

ネットの汚れをふき取ったら、ケースカバーを閉めます。

ケースカバー



6 操作ひもをまとめてクリップでとめる

垂れ下がった操作ひもをまとめてお子様の手が届かない位置にクリップでとめます。

